

1 開催日時、場所

日時：令和2年(2020年)7月14日(火) 14:30~16:30

場所：滋賀県農業教育情報センター 第4研修室

2 出席委員：伊庭治彦、上田洋平、伊藤治仁、松田規久子、島林敏雄
上田和子、前川真司、端信子

3 議事概要

■議事1 滋賀県棚田地域振興計画(案)および今後の棚田地域の指定推進について

質問1 現在は、コロナ禍の状況である。この2~3年でコロナ禍はおさまって、従来どおりの施策が機能していくと想定されての計画か。

回答1 棚田地域振興法は5年後を目標にしている。ポストコロナを意識した中長期的な対策としている。

意見2 交流人口に加え、移住や定住に向け、地域で産業や雇用を生み出すなど総合的な対策を内容とする計画が必要と考える。

回答2 いただいた意見のとおり、地域活性化につながる計画が重要と考えている。

意見3 新型コロナ禍により、ワーケーションということで、定住のためには仕事とセットでないとダメであったが、それが変わってくる可能性がある。また水源地などの中山間地域が有する貴重な資源を、今後そこで生まれ育った地域住民が中心となり保全継承していくことが重要である。計画策定にあたっては、部局連携を図りながら、地域資源の保全活用による総合的な視点で検討されたい。

回答 庁内の関係部局で構成する「棚田地域振興推進協議会」において、密に連携を図りながら、総合的に計画策定を行っていききたい。

■議事2 中山間ふるさと・水と土保全対策事業実施計画について(ふる水基金)

意見1 研修事業において、講習会の機会を広く提供するためにネットを活用して、どこにいても聴講できるようにしていただきたい。

回答1 研修参加者のニーズに応じ、できるかぎり柔軟に対応を図りたい。

質問2 中山間地域の振興をボランティアに頼っていこうという計画であるが、中山間地

で農業を営む人の姿が見えてこない。地域の人々が助成金をどう活用していくのか、どう地域を継承していくのかなどの視点が必要である。

回答2 県では、中山間地域の集落等と企業や大学等が協定を締結し、地域活性化を図るふるさと支えあいプロジェクトを推進しているが、地域の実情や課題を踏まえ、マッチングを行い、効果的な取組を行っている。

計画ではプロジェクトを中山間地域振興の重要な取組と位置付けている。

また中山間地域の相談窓口も整理していきたいと考えている。

■議事3 中山間ふるさと・水と土保全推進事業実施計画について（棚田基金）

質問1 棚田ボランティアの参加者数のグラフをみていると参加者が減少している。特に多かった平成20年と、少なかった令和元年では何が違うのか。

また実施計画では、地域の方にアンケートをとることになっているが、ボランティアに参加された方にもアンケートをとってはどうか。

回答1 平成20年当時は、企業との連携の中で参加されている方が多かった。ボランティアが減少した部分については、地域の方が作業されていると考える。

ボランティアに参加された方へのアンケートについては、施策への反映など有効活用したい。

■全体を通じた意見

意見 人口減少社会や過疎高齢化に加え、新型コロナ禍の影響も踏まえつつ、現状分析や課題の整理を十分行ったうえで、計画を策定されたい。

回答 中山間地域の振興にあたっては、多様な主体と連携・協働しながら地域資源の活用により地域活性化を図る「ふるさと支えあいプロジェクト」が効果的な事業と考えており、新型コロナ禍の影響を念頭に、更に効果的効率的な取組となるように検討してまいりたい。